

外国人労働者雇用、 県内企業の 27.6% 採用「拡大」意向は 16.8% 一進一退続く

「教育・コミュニケーション」の課題は依然高水準
円滑な労使関係を構築する仕組みづくりが必要

栃木県・外国人労働者の雇用・採用に対する企業の動向調査 (2025 年 8 月)



本件照会先

古川 哲也(調査担当)
帝国データバンク
宇都宮支店
TEL: 028-636-0222(代表)
info.utsunomiya@mail.tdb.co.jp

発表日

2025/10/24

当レポートの著作権は株式会社帝国データバンクに帰属します。
当レポートはプレスリリース用資料として作成しております。著作権法の範囲内でご利用いただき、私的利用を超えた複製および転載を固く禁じます。

SUMMARY

栃木県内企業において、現在、外国人を「雇用している」企業は 27.6%となり、前回調査(2024 年 2 月)から 1.0 ポイント減少、採用拡大の意向がある企業は 16.8%(前回 15.3%)とこちらは増加傾向を示した。雇用状況は概ね一進一退が続いているが、今後の採用については増加を示唆している企業は少なくない。外国人労働者の雇用・採用における課題では、「スキルや語学などの教育」(56.9%)、「コミュニケーション」(51.8%)などが依然として高く、異文化との共生が課題となっているようだ。政府は外国人労働者の受け入れを推進しているが、具体的な課題の解決方法や、円滑な労使関係のノウハウなど、わかりやすいロジックの構築が重要と目される。

※株式会社帝国データバンク宇都宮支店は、栃木県内企業 395 社を対象にアンケート調査を実施した。なお、外国人労働者の雇用・採用に対する企業の動向調査は、前回 2024 年 2 月に実施し、今回で 2 回目。

調査期間:2025 年 8 月 18 日～8 月 31 日(インターネット調査)

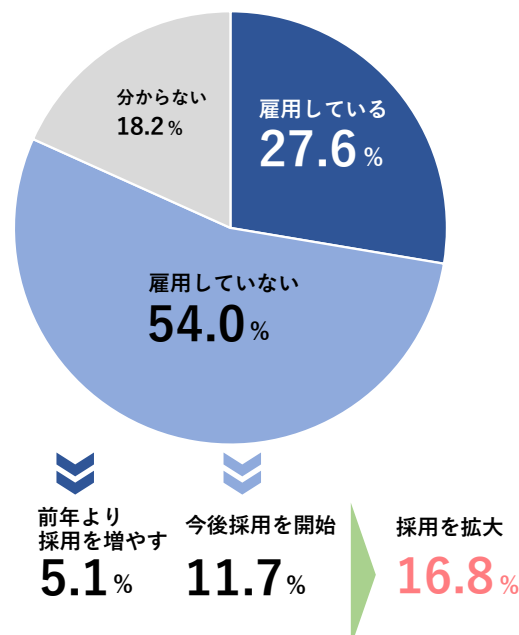
調査対象:栃木県内企業 395 社、有効回答企業数は 137 社(回答率 34.7%)

外国人を「雇用している」県内企業は 27.6% 「運輸・倉庫」「サービス」での採用拡大の傾向目立つ

栃木県内企業に対し、外国人の雇用・採用について尋ねたところ、現在「雇用している」企業は 27.6%となり、前回調査(2024 年 2 月)から 1.0 ポイント減少していた。一方で、現在「雇用していない」企業は 54.0%(前回比 3.6 ポイント減)となり、こちらは明確に減少しているようだ。「分からない」が 18.2%あったが、詳細を確認すると、「海外の現地事務所で採用しており、国内での雇用はない」や、「技能実習生や日本語学校通学中なので社員契約ではない」などの理由から「分からない」を選択したケースなどもあるため、この中にも厳密に言えば雇用しているケースがあるとみられる。企業ごとに様々な事情はあるようだが、何らかの形で外国人雇用に関わっている県内企業の雇用状況は一進一退といった現状と見受けられる。

また、今後の採用に関しては、現在外国人を雇用しており、かつ採用を増やす意向の企業は前回調査から 0.2 ポイント増加し、5.1%となった。また、現在雇用していないが、今後新たに採用する企業は 11.7%(前回比 1.3 ポイント増)だった。両者の合計 16.8%(同 1.5 ポイント増)の県内企業が外国人労働者を採用開始・拡大する意向があるようだ。

外国人労働者の雇用・採用動向



業種別(主要 6 業種)の外国人労働者の雇用状況については、「製造」が 41.4%で最も高く、以下「運輸・倉庫」40.0%、「サービス」31.6%、「建設」27.4%などで高い雇用率を示しており、「小売」7.7%、「卸売」14.3%などでは、あまり積極的ではないようだ。一方で、「今後採用を拡大する」と回答した企業を見ると「運輸・倉庫」が 40.0%で最も高く、「サービス」も 36.8%と高い水準であった。しかし、「卸売」9.5%をはじめ、「建設」13.7%、「製造」14.6%、「小売」15.4%など 4 業種では、平均値を下回る状況で、外国人採用については、業種間の格差も大きいようである。

ここで企業からの声を紹介する。「弊社では国内での採用はなく、海外にある現地事務所で雇用している。ある程度の年月が経過すれば定着するのだが、近年では早い時期に辞めてしまう方が多い。そもそも仕事に対してドライで、転職の気軽さと働き方の多様化が文化を醸成しており、日本人とは相容れないところが多いのではないか」(サービス)、「非常に関心を持っています。今まで日本人だけを雇用してきましたが、ここまで採用に苦勞すると、外国人という選択肢が現実を帯びています。ただし、様々な噂や、周辺の雇用している業者の話を見ると、苦勞している話が多く聞かれ、ナーバスになっているのも事実です」(製造)、「4年前に2人を採用しましたが、一人前になったところで、二人とも給料の高い会社に転職していきしました。腰掛け的な意識や、人間関係にドライな部分は否めず、結果にはショックを受けています」(製造)、「やはり労働力の確保だけに特化してしまうと、誤る部分も出てくるのではないかな。その国の文化を認め、宗教や風習を理解し、定住し子ども達も日本で育てる・・・などしっかりしたライフスケジュールを前提にした雇用でなければ、定着しないと思います」(卸売)、「人にもよります。非常に仕事の覚えが悪く、チームに支障が出るレベルだと、どうにもならない。そういった人に限って、給料や休暇などにクレームを付けるものです。働く意識や努力の度合いも加味した採用を心がける必要があります」(建設)、「エンジニアや教育ができるような高度人材は大いに受け入れるべきだが、技能実習生や日本語学校入学などが窓口では、事実トラブルの温床になっているのではないかな？先日も技能実習生が舞い込んできたが、結局歯医者に通い、完治したら辞めていった。これでは疲れるだけです」(サービス)、「非常に難しい問題だと認識しています。確かに生産年齢人口は減少する一方で、外国人雇用は時代の流れなのかもしれません。ただし、非常に問題の多い方を国内に入れることは、管理するだけで余計なマンパワーを消失するような気がします。もちろん、誰が判断するのかという問題も絡みますが、非常にまじめでしっかり働いてくれる方もいる一方で、不良外国人も少なくない。グリップが大事ですね」(建設)など、様々な意見が寄せられた。実際に雇用経験のある企業からの声も多く届いており、「被害を受けた・・・」に近いような感想も少なくない。改めて、外国人雇用については、様々な問題が潜在しており、表面化している様々な課題も含めて、国が主導して解決していかなければならないと感じる。知識も豊富でなく、常に疑心暗鬼の中で、雇用を進めていく中小企業がいることを、改めて認識する必要があるだろう。

外国人労働者の雇用・採用状況

	現在雇用している 今後も採用する (前年より採用を増やす)	現在雇用している 今後も採用する (前年と同じ程度)	現在雇用している 今後も採用する (前年より採用を減らす)	現在雇用している 今後は採用しない	現在雇用していない 今後は採用する	現在雇用していない 今後も採用しない	分らない	現在雇用している	今後採用を拡大する	現在雇用していない
全体	3.1 (333)	12.8 (1,365)	4.1 (438)	4.8 (511)	11.2 (1,196)	46.9 (5,022)	17.2 (1,836)	24.7 (2,647)	14.3 (1,529)	58.1 (6,218)
栃木	5.1 (7)	15.3 (21)	3.6 (5)	3.6 (5)	11.7 (16)	42.3 (58)	18.2 (25)	27.6 (38)	16.8 (23)	54.0 (74)
大企業	9.1 (2)	36.4 (8)	0.0 (0)	0.0 (0)	9.1 (2)	31.8 (7)	13.6 (3)	45.5 (10)	18.2 (4)	40.9 (9)
中小企業	4.3 (5)	11.3 (13)	4.3 (5)	4.3 (5)	12.2 (14)	44.3 (51)	19.1 (22)	24.2 (28)	16.5 (19)	56.5 (65)
うち小規模	0.0 (0)	5.9 (3)	3.9 (2)	3.9 (2)	9.8 (5)	54.9 (28)	21.6 (11)	13.7 (7)	9.8 (5)	64.7 (33)
農・林・水産	0.0 (0)	50.0 (1)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	50.0 (1)	50.0 (1)	0.0 (0)	0.0 (0)
金融	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	33.3 (1)	66.7 (2)	0.0 (0)	0.0 (0)	33.3 (1)
建設	3.4 (1)	17.2 (5)	3.4 (1)	3.4 (1)	10.3 (3)	48.3 (14)	13.8 (4)	27.4 (8)	13.7 (4)	58.6 (17)
不動産	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	50.0 (2)	50.0 (2)	0.0 (0)	0.0 (0)	50.0 (2)
製造	2.4 (1)	26.8 (11)	4.9 (2)	7.3 (3)	12.2 (5)	34.1 (14)	12.2 (5)	41.4 (17)	14.6 (6)	46.3 (19)
卸売	0.0 (0)	9.5 (2)	0.0 (0)	4.8 (1)	9.5 (2)	52.4 (11)	23.8 (5)	14.3 (3)	9.5 (2)	61.9 (13)
小売	0.0 (0)	0.0 (0)	7.7 (1)	0.0 (0)	15.4 (2)	61.5 (8)	15.4 (2)	7.7 (1)	15.4 (2)	76.9 (10)
運輸・倉庫	0.0 (0)	40.0 (2)	0.0 (0)	0.0 (0)	40.0 (2)	20.0 (1)	0.0 (0)	40.0 (2)	40.0 (2)	60.0 (3)
サービス	26.3 (5)	0.0 (0)	5.3 (1)	0.0 (0)	10.5 (2)	36.8 (7)	21.1 (4)	31.6 (6)	36.8 (7)	47.3 (9)
従業員数別	5人以下	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	4.2 (1)	62.5 (15)	29.2 (7)	4.2 (1)	4.2 (1)	66.7 (16)
	6人～20人	0.0 (0)	6.8 (3)	4.5 (2)	2.3 (1)	15.9 (7)	54.5 (24)	13.6 (6)	15.9 (7)	70.4 (31)
	21人～50人	12.9 (4)	6.5 (2)	0.0 (0)	6.5 (2)	6.5 (2)	45.2 (14)	25.9 (8)	19.4 (6)	51.7 (16)
	51人～100人	10.0 (2)	45.0 (9)	5.0 (1)	0.0 (0)	10.0 (2)	25.0 (5)	60.0 (12)	20.0 (4)	35.0 (7)
	101人～300人	7.7 (1)	23.1 (3)	15.4 (2)	7.7 (1)	30.8 (4)	0.0 (0)	53.9 (7)	38.5 (5)	30.8 (4)
	301人～1,000人	0.0 (0)	100.0 (4)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	100.0 (4)	0.0 (0)	0.0 (0)

注1: 網掛けは、栃木以上を表す

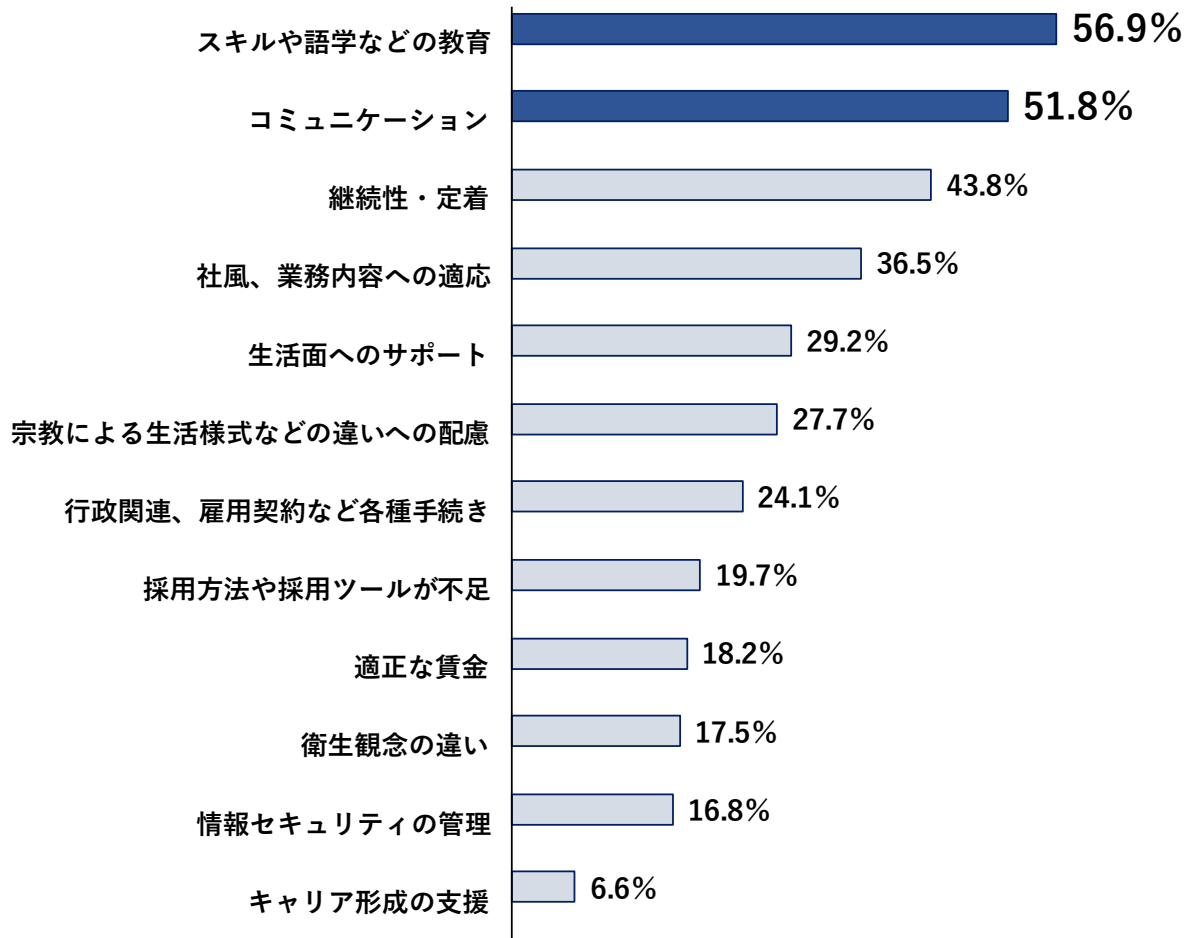
注2: 母数は、有効回答企業137社

外国人雇用の課題、「教育・コミュニケーション」が突出

外国人労働者を雇用する際の課題について尋ねたところ、「スキルや語学などの教育」(56.9%)と「コミュニケーション」(51.8%)の2項目が50%を上回り、前回調査に引き続き突出して高かった。以下、「継続性・定着」(43.8%)、「社風、業務内容への適応」(36.5%)、「生活面へのサポート」(29.2%)、「宗教による生活様式などの違いへの配慮」(27.7%)などが続いた。前項で取り上げた企業からの声にも、様々な意見が寄せられているように、日本国内の受け入れ体制が充実しているとは言い切れない部分も多い。時代の変化も著しく、過去にあった「安いコストで大量に人を集める」ような発想は通用しないし、賃金も逆に諸外国の方が高くなりつつある。まして、文化も習慣も理解せずに、「郷に入れば郷に従え」といった感覚では、誰も応募はしてこないだろう。「働かせてやっている」のではなく、「働いて頂いている」という認識が重要なかもしれない。特に中小企業は学習不足かつ経験不足もあって、諸外国の文化や風習については知識が少なく、外国人に対する接し方も理解していない企業が少なくない。

そういった認識の甘さが今回のアンケート結果につながっており、「教育やコミュニケーション」を準備しなければならぬ日本サイドの受け入れ体制が最大の課題としてあげられることになる。外国人雇用をうまくやっている某企業の声を紹介すると、「スキルや語学などの教育」や「コミュニケーション」などは基本中の基本で、そもそも日本に来る前に解決しておかなければならないファクターだという。加えて、採用は「募集して待つ」姿勢ではいつになっても採用できない。「外国までスカウトに行く」姿勢が当たり前だ。「給料は日本人より高い」くらいの意識でちょうど良い。時代はそうなっているとのことだ。ドラスティックかもしれないが、時代は変わっていることをよく認識し、学習と経験を積むことが中小企業にとって重要なかもしれない。少なくとも、今の国の姿勢ではトラブルは解消できない。明確なリーダーシップが必要なのだろう。

外国人労働者の雇用・採用における課題（2025 年 8 月）



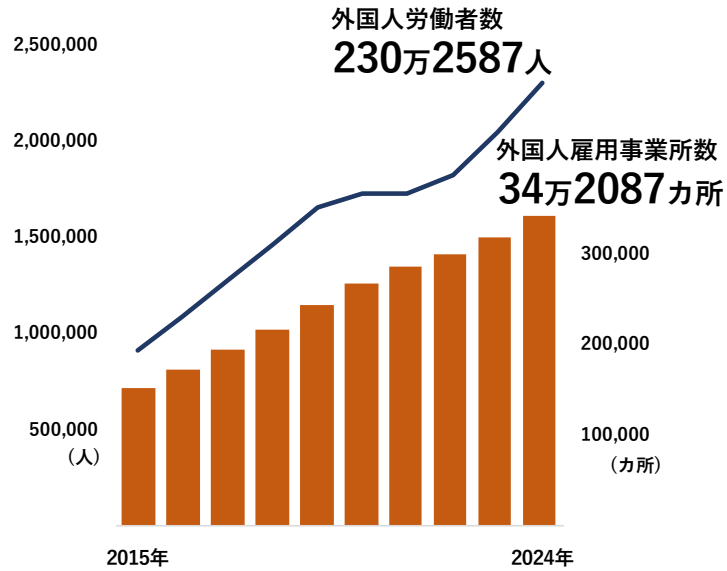
まとめ

今回の栃木県内企業における『外国人労働者の雇用・採用の動向』結果は、現在、外国人を「雇用している」企業の割合は 27.6%となった。前年の 28.6%と比較すると、1.0 ポイント減少しており、一進一退が続いている状況である。ただし、「採用を拡大する意向」のある企業は 16.8%と、前年比 1.5 ポイント増加しており、今後外国人採用は増加する傾向があることが確認できた。特に、「運輸・倉庫」40.4%、「サービス業」36.8%と、増加を示唆しており、外国人雇用は喫緊の課題になっているようである。

また、外国人労働者の雇用・採用における課題では、「スキルや語学などの教育」「コミュニケーション」が大きな障壁となっている。実はこの傾向も前年と大きな変化はなく、雇用に際して高いハードルであるようだ。しかし、前項で示したように、言葉や習慣、スキルなどは、基本的に採用前に解決しておかなければならない問題であると指摘する経験豊富な企業からの声もあり、基本的に「働かせてやっている」のではなくて、「働いて頂いている」という発想は、非常に重要なスタンスなのかもしれない。外国人雇用がうまくいっていない企業は必ず要因があり、「外国にスカウトに行く」ようなプロセスを構築するかどうかは別として、少なくとも理解し受け入れるための努力が足りていないという指摘は気になる点ではある。とはいえ、個々の中小企業ができることにも限界がある。国として、どういった外国人雇用のスタンスを築くのか、ノウハウの共有や、今

ある課題の解決、さらには知識や経験の少ない中小企業の支援体制をどう構築するのか……役割は非常に大きいと感じる。

< 参考 > 外国人労働者・雇用事業所の推移



出所：厚生労働省「外国人雇用状況の届出状況について(各年10月)」